

## 本道からの転出超過数

### ●指標の説明

#### 【対応する政策】

- 大項目(分野) 3 人・地域
- 中項目(政策の柱) (6) 連携・協働・交流による未来に向けた地域づくり
- 小項目(政策の方向性) ■個性と魅力を活かし様々な連携で支え合う地域づくり

#### 【何を測る指標か】

本道における、人口の社会増減の状況を測る指標

#### 【定義・算出式】

本道に転入してくる人と本道から転出する人の差等による社会増減をいう。

#### 【出典】

総務省「住民基本台帳に基づく人口・人口動態及び世帯数」、毎年調査、7月頃公表

### ●指標の達成状況

【①基準値】※「基準値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値  
平成26年(2014年) 約8,000人

#### 【②目標値】

目標年: 令和7年(2025年) 目標値: 0人

#### <目標値設定の考え方>

本道各地域の個性と魅力を活かした地域づくりを進めることにより、転出超過の状況を解消することを目標としている。

【③実績値】※「実績値」は令和2年(2020年)8月1日時点での最新の統計数値  
令和元年(2019年) 2,331人

#### <達成度合の分析>

#### 【内的要因】

外国人を雇用する企業の増加などに伴い、企業や地域による外国人受入環境の整備を進めたことにより、外国人の転入が増加傾向にある。

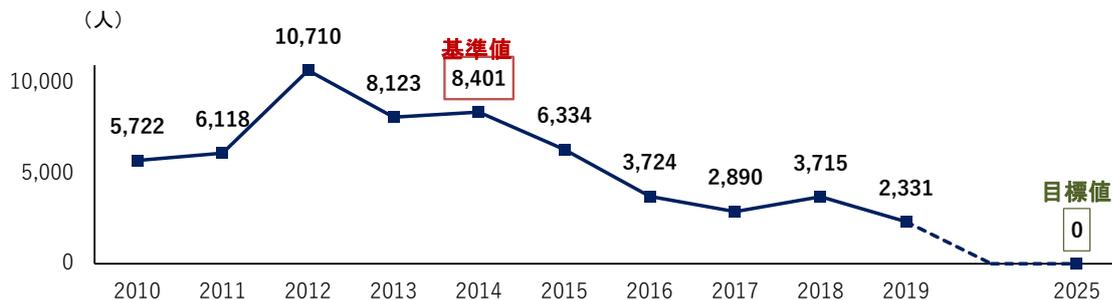
#### 【外的要因】

外国人の転入増加の影響により、転出超過数は減少傾向にあるが、日本人は若年層を中心として主に進学や就職を理由とした転出超過が続いている。

### ●データ

年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
転出超過	5,722	6,118	10,710	8,123	8,401	6,334	3,724	2,890	3,715	2,331
					基準値					実績値

(注)法改正により外国人住民が新たに住民基本台帳の記載対象となったため、平成24年度(2012年度)は一時的に11,576人の社会増となった前後年との比較のため、同年の数値は、転入・転出のみを対象とした住民基本台帳の記載・消除数の差引に置き換えている。



(年(度)) ※2012までは年度、2013以降は暦年で集計

## 外国人居住者数

### ●指標の説明

#### 【対応する政策】

- 大項目(分野) 3 人・地域
- 中項目(政策の柱) (6) 連携・協働・交流による未来に向けた地域づくり
- 小項目(政策の方向性) ■国際交流と多文化共生の推進

#### 【何を測る指標か】

外国人にも暮らしやすい地域づくりの状況を測る指標

#### 【定義・算出式】

道内に在住する中長期在留者\*及び特別永住者の数

#### 【出典】

法務省「在留外国人統計」、毎年調査、6月頃公表

\*「中長期在留者」とは、出入国管理及び難民認定法上の在留資格をもって我が国に在留する外国人のうち、次の①から⑥までのいずれにもあてはまらない者

- ① 「3月」以下の在留期間が決定された者
- ② 「短期滞在」の在留資格が決定された者
- ③ 「外交」又は「公用」の在留資格が決定された者
- ④ ①から③の外国人に準じるものとして法務省令で定める者
- ⑤ 特別永住者
- ⑥ 在留資格を有しない者

### ●指標の達成状況

【①基準値】※「基準値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値

平成26年(2014年) 23,534人

#### 【②目標値】

目標年: 令和7年(2025年) 目標値: 51,000人

#### <目標値設定の考え方>

道民と外国人居住者が互いの文化や生活習慣などを相互に理解・尊重するなどの多文化共生社会の実現に向けた取組を進めることにより、過去10年間の全道の外国人居住者数の増加率と同程度で今後も増加することを見込み、目標値を設定している。

【③実績値】※「実績値」は令和2年(2020年)8月1日時点での最新の統計数値

令和元年(2019年) 42,485人

#### <達成度合の分析>

#### 【内的要因】

道内の外国公館やJICA北海道、北海道国際交流・協力総合センターとの連携、イベントへの後援等、国際交流や多文化共生社会の推進に資する取組の効果が表れている。

#### 【外的要因】

増加した人数の1/3以上(約2,000人)を技能実習生が占めており、道内企業・団体の外国人材獲得に向けた積極的な取組の結果が反映されている。

### ●データ

(単位:人)

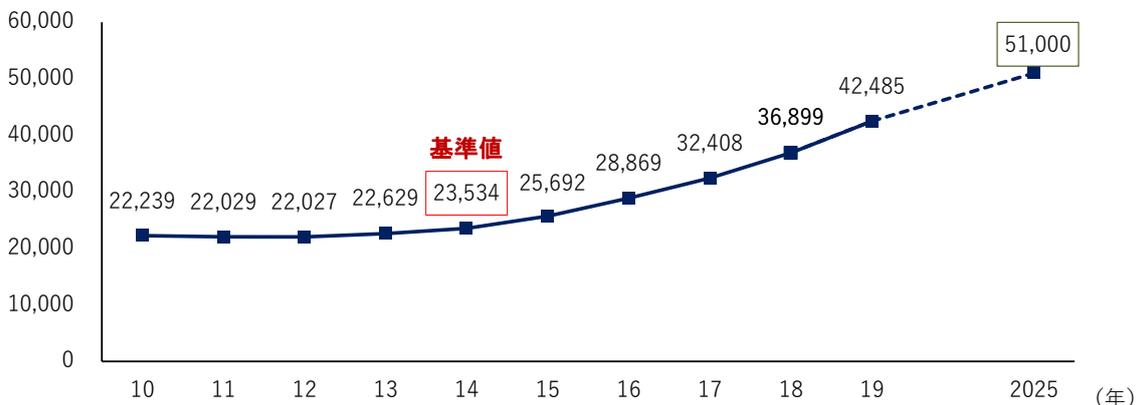
年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
外国人居住者数	22,239	22,029	22,027	22,629	23,534	25,692	28,869	32,408	36,899	42,485

基準値

目標値

実績値

(人)



## 北方領土返還要求署名数（累計）

### ●指標の説明

【対応する政策】

- 大項目(分野) 3 人・地域
- 中項目(政策の柱) (6) 連携・協働・交流による未来に向けた地域づくり
- 小項目(政策の方向性) ■ 北方領土の早期返還と隣接地域の振興

【何を測る指標か】

北方領土返還要求運動の推進状況を測る指標

【定義・算出式】

昭和40年から行われている北方領土返還要求署名数の累計値

【出典】

北海道総務部調べ、毎年調査、4月公表

### ●指標の達成状況

【①現状値】 ※「現状値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値

平成26年度(2014年度) 8,702万人

【②目標値】

目標年: 令和7年度(2025年度) 目標値: 9,769万人

<目標値設定の考え方>

平成21年度(2009年度)から平成26年度(2014年度)までの北方領土返還要求署名数の年間平均値(97万人)をもとに目標値を設定している。

【③実績値】 ※「実績値」は令和2年(2020年)8月1日時点での最新の統計数値

令和元年度(2019年度) 9,153万人

<達成度合の分析>

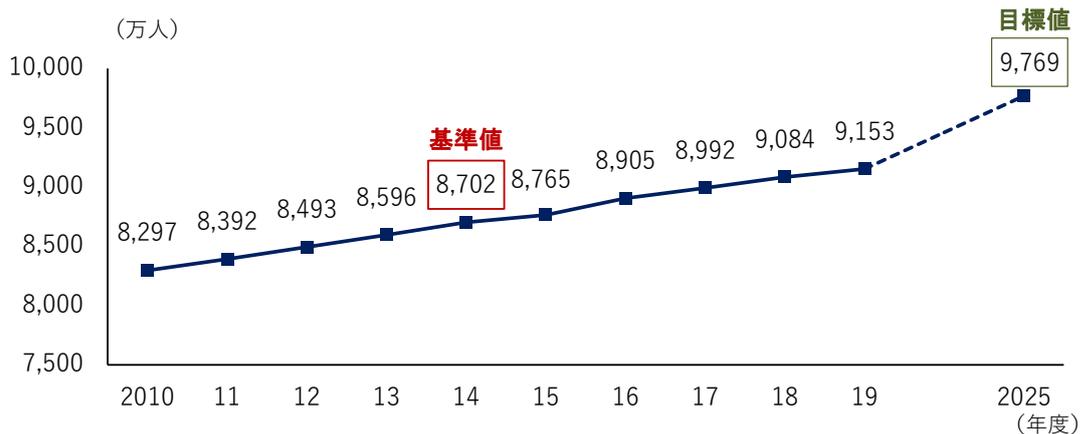
関係団体等と一体となった啓発活動の展開など、北方領土復帰対策に係る各種事業の確実な実施により、概ね順調に推移。

### ●データ

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
署名数	8,297	8,392	8,493	8,596	8,702	8,765	8,905	8,992	9,084	9,153

(単位: 万人)

基準値 実績値



**指標名 個別施設ごとの長寿命化計画策定率**

**●指標の説明**

【対応する政策】

- 大項目(分野) 3 人・地域
- 中項目(政策の柱) (7) 持続可能な社会・経済を支える社会資本の整備
- 小項目(政策の方向性) ■ 産業活動や暮らしを支える社会資本の戦略的・効率的な整備

【何を測る指標か】

インフラの長寿命化や必要な機能の適正化など戦略的な管理を進め、維持管理・更新等に係るコストを縮減・平準化する取組の状況を測る指標

【定義・算出式】

道所有の交通、上下水道、公園、治水、農林水産施設、建物などの個別施設ごとに策定する長寿命化計画の策定割合。施設の維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減・平準化を図るため、点検・診断等の結果をもとに取組の優先順位など個別施設ごとの具体の対応を示す「個別施設ごとの長寿命化計画」を定め、計画的な取組を進めるもの。

【出典】

北海道総合政策部調べ、毎年調査、3月確定

**●指標の達成状況**

【①基準値】 ※「基準値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値  
平成26年度(2014年度) 41.7%

【②目標値】

目標年: 令和2年度(2020年度) 目標値: 100%

＜目標値設定の考え方＞

限られた財源の中でインフラの長寿命化や必要な機能の適正化など戦略的な管理を進め、維持管理・更新等に係るコストの縮減・平準化に取り組むため、全ての道有施設等の個別計画の策定率を100%とすることを目標としている。なお、目標年は北海道インフラ長寿命化計画において設定している令和2年度(2020年度)としている。

【③実績値】 ※「実績値」は令和2年(2020年)8月1日時点での最新の統計数値

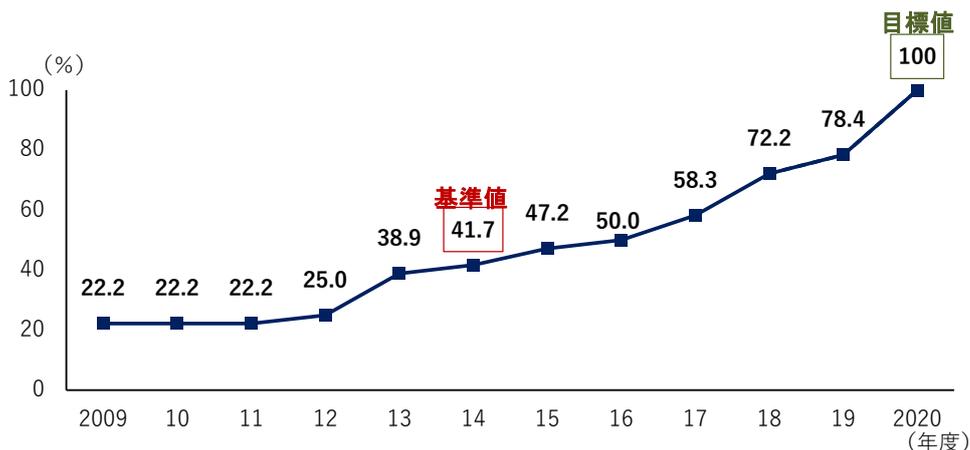
令和元年度(2019年度) 78.4%

＜達成度合の分析＞

目標に向けて概ね順調に推移している。道が所有する施設の維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減・平準化に向け、引き続き取組を推進する。

**●データ**

年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
策定率	22.2	22.2	22.2	25.0	38.9	41.7	47.2	50.0	58.3	72.2	78.4
						基準値					実績値



## 道内空港の国際線利用者数

### ●指標の説明

#### 【対応する政策】

- 大項目(分野) 3 人・地域
- 中項目(政策の柱) (7) 持続可能な社会・経済を支える社会資本の整備
- 小項目(政策の方向性) ■連携と交流を支える総合的な交通ネットワークの形成

#### 【何を測る指標か】

航空路の拡充や空港機能の強化などによる人流の拡大状況を測る指標

#### 【定義・算出式】

道内空港の国際線(定期便、チャーター便)利用者数

#### 【出典】

国土交通省「空港管理状況調査」、毎年調査、9月公表

### ●指標の達成状況

【①基準値】 ※「基準値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値  
平成26年度(2014年度) 205万人

#### 【②目標値】

目標年:令和7年度(2025年度) 目標値:380万人以上

#### <目標値設定の考え方>

総合政策部航空局が実施した調査において全道的に空港受入体制の更なる強化が進められた場合、令和2年度(2020年度)に380万人程度の国際線利用者数の受入が可能と算出されたことから、これ以上の利用者数とすることをめざし、目標値として設定している。

【③実績値】 ※「実績値」は令和2年(2020年)8月1日時点での最新の統計数値  
令和元年度(2019年度) 350万人

#### <達成度合の分析>

【内的要因】新千歳空港の国際拠点化を進めるとともに、戦略的な誘致活動を展開した結果、国際線就航便数は順調に増加し、国際線利用者数も増加した。

【外的要因】インバウンド需要の高まりから、国際線利用者数が増加した。

### ●データ

道内空港の国際線利用者数の推移

(単位:万人)

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
新千歳空港	85	95	89	110	134	170	228	272	349	386	331
その他道内空港	14	17	9	15	27	35	42	32	25	24	19
合計	99	112	98	126	162	205	270	305	374	410	350

(現状値)

(実績値)

